

花崗岩でできた古代寺院の名残
惣爪塔跡



| | |
|--------|---|
| 指定区分 | 国指定史跡 |
| 読みかた | そうづめとうあと |
| 所在地 | 岡山市北区惣爪 |
| 指定年月日 | 昭和3年2月7日 |
| 解説 | 古代の寺跡を示す花崗岩の塔跡の心礎。長径約2m、短径約1.5m。楕円形の花崗岩の中央部に円柱孔(直径約70cm、深さ約17cm)があり、その底にさらに小孔(直径約16cm)がある。周辺から奈良時代の瓦の破片などが発見されており、一定規模の寺域を想定することができる。 |
| アクセス方法 | JR吉備津駅から徒歩約30分 |
| 公開状況 | 自由 |
| 設備 | |
| 備考 | 足守川対岸の丘陵には、弥生時代の墓としては最大規模を誇る楯築遺跡や、石棺のある王墓山古墳があります。 |

きつずページ



| | |
|-------------------|--|
| していくぶん (指定区分) | 国指定史跡 |
| ぶんかざいめい (文化財名) | 惣爪塔跡 |
| よみかた | そうづめとうあと |
| しょざいち (所在地) | 岡山市北区惣爪 |
| していつひ (指定した日) | 昭和3年2月7日 |
| せつめい | 塔(とう)の柱(はしら)をうける土台(どだい)の跡(あと)がのこっています。この土台の跡は花崗岩(かこうがん)という石でできています。古代にここに寺(てら)があったことが分かります。まわりから奈良時代(ならじだい)の瓦(かわら)の破片(はへん)などが見つかったので、それなりに広い寺だったことが想像(そうぞう)できます。 |